

# 災害 自分の事として

## NIE大会 岩手で分科会

新聞を学校教育で活用するNIE（ニュースペーパー・イン・エデュケーション）の「第23回NIE全国大会盛岡大会」は27日、分科会が開催された。盛岡市のアイーナ（いわて県民情報交流センター）と、岩手県大槌町の町立大槌学園（小中一貫校）で実践報告や公開授業が行われ、教育関係者や新聞社の関係者が参加した。



今大会のテーマは「新聞と歩む 復興、未来へ」。同県内では東日本大震災（平成23年）で被災した経験に基づくNIE授業が盛んで、同県立沼宮内高校3年生は「災害を自分事として考えよう」をテーマに、グループワーク形式での公開授業を実施した。

### 公開授業で防災議論

盛岡の小学校

NIE全国大会の盛岡市会場で行われた同市立本宮小6年1組の公開授業では、「命を守る ふるさとを守る」をテーマに新聞記事を使って見出し、避難指示の遅れなどの問題点と対策について意見を

マップや回覧板、SNSで避難場所や経路を伝える工夫や、災害から身を守る方法をクイズやゲームで伝えるなどの方策を考案し、発表していた。

### 大槌学園では希望新聞作り



NIE全国大会の公開授業で、新聞記事について話し合う小学生—27日、岩手県大槌町

し合った。西日本豪雨を報じた産経新聞の記事を用いたグループは、避難先ではない小学校に逃げて浸水に遭った点に着目、被害予測するハザードマップの重要性を訴えた。担当した山内和子教諭は、授業後の研究会で「新聞に継続的に触れ、情報の質が高く

一方、大槌学園では6学年と9学年が校内で公開授業。6学年は、復興に関わる人物紹介記事を読み、記事の中から共通する人々の思いを読み取って発表し、2学期の「大槌希望新聞」づくりに向けた学習に取り組んだ。児童たちは「復興に努力している人々には、悲しみを乗り越えて、今できることを見つけて努力する」という共通の思いがあった」などと発表した。

また実践報告では、主権者教育や算数ではがき新聞づくりなども報告。「主権者教育における新聞活用の在り方」をテーマにNIEを実践している、岩手県一関市立磐井中学校は、18歳選挙権を受けて主権者に必要な論理的思考力などを育む取り組みを紹介した。担当の阿部信博教諭は新聞を教材に使うことで「生徒が実感しにくい社会問題を扱うことができ、考えることができた」と話した。